



令和元年8月15日

富士見市議会議長 篠田 剛 様

会 派 名 公 明 党
代 表 津波 信子

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 令和元年8月1日～令和元年8月2日（2日間）
- 2 参加者名 篠田 剛 加藤 清 深瀬 優子
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
東京ビッグサイト国際会議場（東京都江東区有明3-11-1）
- 4 調査・研修事項
「全国地方議会サミット」～チーム議会が地域を良くする～

<1日目：8月1日（木）>

【基調講演】「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」
北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

【パネルディスカッション】「NHK地方議員2万人アンケートのホンネ」
江藤 俊昭氏（山梨学院大学教授）

杉田 淳氏（NHK報道局選挙プロジェクト副部長）

久保 隆氏（NHK報道局選挙プロジェクト記者）

2019年1～3月に全国の地方議員32,450人へのアンケート（回答率59.6%）から見えてくる地方議会の現状について、様々な分析が行われた。

【パネルディスカッション】「チーム議会に職員だからできること」

清水 克士氏（滋賀県大津市議会局次長）

小原 昌江氏（岩手県北上市議会事務局議事課長）

岩崎 弘宜氏（茨城県取手市議会事務局次長）

小林 宏子氏（東京都羽村市議会事務局長）

議会基本条例に議会事務局の提案権を盛り込んだことなど、様々な先進事例が語られた。

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その1）」

松田 崇義氏（株式会社メディアドゥ smart 書記事業部長）

国内外でペーパーレス化に取り組んだ結果、施策が大きく進んだ事例などの紹介があった。

【講演】「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」

片山 善博氏（早稲田大学教授、元総務大臣）

議会は決定機関であるとの視点から、議会が果たすべき責務についてなどの講演があった。

【総括】北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

<2日目：8月2日（金）>

【先進事例報告】「チーム議会の実践と課題」

千葉 茂明氏（月刊「ガバナンス」編集長）

早苗 豊氏（北海道芽室町議会議長）

諸岡 覚氏（三重県四日市市議会議長）

梅村 均氏（愛知県岩倉市議会議長）

議会改革を行っていく上で重要となる、議会の合意形成や住民の理解など、積極的に取り組んでいる事例などの紹介があった。

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から首長との関係を考える」

北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

谷畑 英吾氏（滋賀県湖南市長）

越田謙治郎氏（兵庫県川西市市長）

上村 崇氏（京都府京田辺市長）

早稲田大学マニフェスト研究所に、かつて所属をしていた経歴を持つ首長の視点で、議会の役割について意見が交わされた。

【先進事例報告】「チーム議会の視点から選挙のあり方を考える」

中村 健氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

則武 宣弘氏 中原 淑子氏 林 敏宏氏（公明党岡山市議団）

会派で取り組んでいるマニフェストを、議会での取り組みへ発展させ、条例制定へと導いた先進的な取り組みや選挙のあり方等の話があった。

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その2）」

米田 英輝氏（東京インタープレイ株式会社代表取締役）

自社文書管理ソフト「Side Books」に関する説明があった。安城市などで導入されている電子採択や、予算書、決算書の書式を電子書式にあわせて改良し、ペーパーレス化が進んでいる事などの話があった。

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から市民との関係を考える」

佐藤 淳氏（青森中央学院大学准教授）

瀧野 良枝氏（長野県飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポーター）

原口佐知子氏（静岡県牧之原市 市民ファシリテーター）

田口 裕斗氏（岐阜県可児市議会高校生議会、現 立命館大学3年）

竹下 修平氏（愛知県新城市議会議員、元新城市若者議会議長）

チーム議会を目指すにあたって、議会基本条例や総合計画と目標達成のための貢献意欲が肝要であり、議員や議会事務局と市民がコミュニケーションを取りながら共通目標を共有することが重要であると話があった。

【パネルディスカッション】「国会は地方議会をどう見ているか」

廣瀬 克哉氏（法政大学教授）

石破 茂氏（自民党衆議院議員、元地方創生担当大臣）

稲津 久氏（公明党衆議院議員、党地方議会局長）

逢坂 誠二氏（立件民主党衆議院議員、元ニセコ町長）

- ・国は以前より地方の発展を掲げてきた。今後、人口減少が加速するのが明らかであり食糧を生産し出生率が高いのは地方である。
- ・首都圏では医療や介護の人材不足が明らかであり、首都直下型地震も懸念される。
- ・47都道府県でそれぞれ特性が違う。最善の政策はそれぞれの地域でしかわからない。
- ・KPI、PDCAなどの手法を活用し、産官学銀労メディアが力を合わせて取り組む必要がある。
- ・選挙の際の政策ビラは、政令都市で81.4%、市区で64.1%活用された。紙媒体のビラとSNSの活用の観点で、議論が必要と考える。
- ・地方議会が政治の原点と考える。やりっぱなしの行政と頼りっぱなしの民間、無関心な市民の中で、指摘ができるのが議員である。

- ・選挙に強い議員は、日ごろの議員活動が素晴らしい。議員や議会として聴く力が大事であること他、意見が交わされた。

【総括】 北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

5 感想及びまとめ

チーム議会の必要性について、基調講演や先進事例などを通して議論が交わされ多くを学ぶことができた。市民の代表である議会が会派を超えてチーム議会となり、自治体と対等に議論をしていく事が、自治体の体制の向上や市民生活の向上につながるこの話は、今後の議会運営の方向性を考える上において、大いに参考となった。

また総括では、「北京の蝶々の羽ばたきが、北米の嵐になる」とのエピソードを踏まえて、地方議員の活動が集まれば、国を変えることができるので期待するとの話もあった。

今研修では議会の役割や責任を再認識することができたので、今後の議会活動にしっかりと活かしていきたい。

*行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は会派にて保管